

岐阜市におけるタンポポ属の分布

高橋¹⁾弘・高野裕行¹⁾・成瀬亮司²⁾・小椋郁夫³⁾
井上好章⁴⁾・伊神和弘⁵⁾・下洞儀久⁶⁾・丹羽志津子⁷⁾

Distribution of *Taraxacum* Species in Gifu City

Hiroshi TAKAHASHI, Hiroyuki TAKANO, Ryoji NARUSE, Ikuo OGURA
Yoshiaki INOUE, Kazuhiro IGAMI, Yoshihisa SHIMOBORA, Shizuko NIWA

Summary

Distribution of *Taraxacum* species in Gifu City was investigated. Three native species, *T. elatum*, *T. longeappendiculatum* and *T. albidum*, and two introduced ones, *T. officinale* and *T. laevigatum*, occurred in this city. Many plants of the introduced species were in the downtown (the central and southern parts of the city). Although *T. elatum* and *T. longeappen diculatum* were mainly distributed at most areas in the other parts of city, the introduced species were dominant also at the recently developed housing areas. On the whole, this distributional situation corresponds to the degree of disturbance of nature; the introduced species mainly in the place where nature has been highly disturbed, the native ones mainly in the place not so disturbed.

はじめに

大阪府(堀田, 1975)、仙台市(内藤, 1975)などに始まる多くの地域でのタンポポ類の分布調査によって、環境の劣悪な場所には外来種のセイヨウタンポポやアカミタンポポが多く、良好な場所には在来種が多く生育することが明らかにされて来た。特に京阪神地域では、自然破壊の著しい地区と、外来種の在来種に対する分布比が高い地区とがよく一致することが示された(堀田, 1977)。これらの結果から、タンポポ属は環境指標植物となり得ることがわかった。

岐阜市内でのこのような調査報告は、岐阜大学統合移転地(岐阜市柳戸)周辺の極く限られた地域についてのみである(高橋, 1983)。しかし、そこでも、在来種のほかに、外来種のセイヨウタンポポとアカミタンポポが分布しており、その分布状態は環境の優劣と明瞭な対応関係が見られている。岐阜市には、自然植生のよく残っているところから、それが完全に破壊されてしまっているところまで、様々な環境が存在する。そこで、岐阜市全体について、タンポポ属植物の分布状況を調査してみた。

1) 岐阜市岐阜大学教育学部、2) 岐阜市岐阜東高校、3) 岐阜市岐阜大学附属中学校、4) 各務原市鷺沼第一小学校、5) 各務原市緑葉中学校、6) 各務原市那加第二小学校、7) 名古屋市長久寺小学校

調査方法

調査は1983年4月中旬から5月上旬にかけて行なった。予め地図上で、道路に沿った調査ルートを決めておき、そこを徒歩により開花個体の種類の判別をして、地図にプロットしていった。

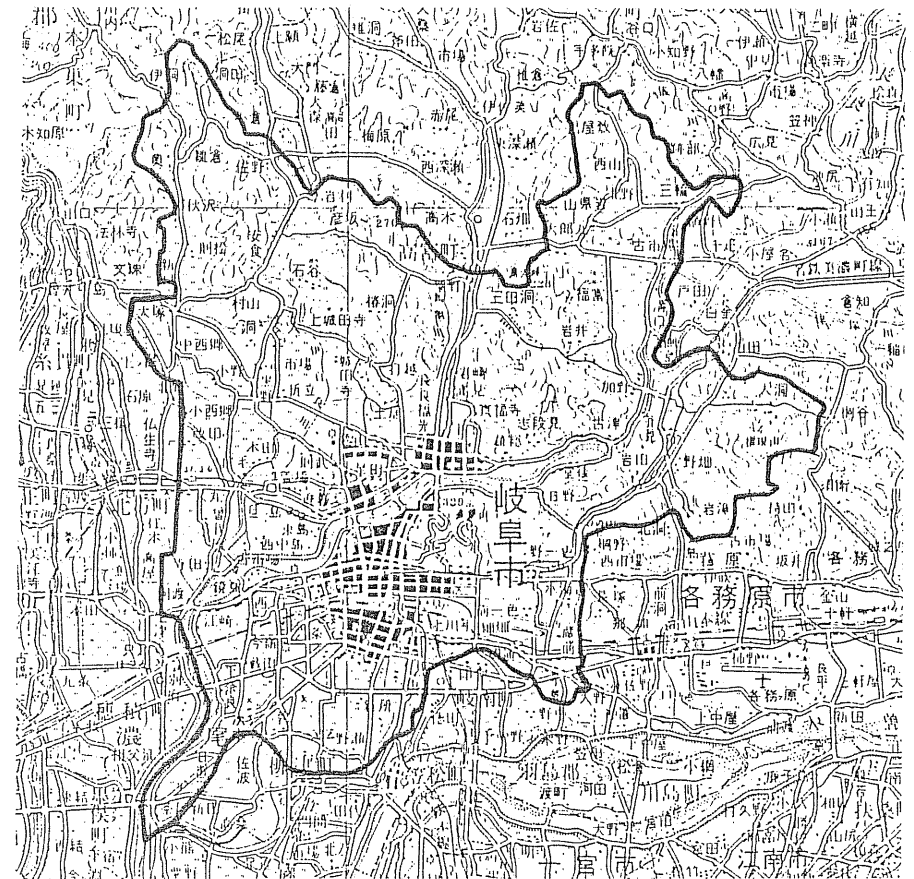


Fig. 1. Map of Gifu City. × 1 / 200,000. (from a topographical map published by Geographical Survey Institute of Construction, Japan).

結果及び考察

岐阜大学統合移転地周辺地域(高橋, 1983)と同様に、典型的なセイタカタンポポ *Taraxacum elatum* と、トウカイタンポポ *T. longeappendiculatum* と同定し得るものがあり、しかも、両者の中間的な様々な型のものが存在した。そこで、ここでは、高橋(1983)と同様に、便宜的にこれらをセイタカタンポポとして扱うことにする。岐阜市にはこの他、在来種のシロバナタンポポ *T. albidum*、及び外来種であるセイヨウタンポポ *T. officinale* とアカミタンポポ *T. laevigatum* が存在した(Fig. 2)。外来種は種子を見なければ正確な同定が困難なため、両者をセイヨウタンポポとして扱った。

量的にはシロバナタンポポは少なく、西部でやや目立つ程度であった。大部分はセイタカタンポポとセイヨウタンポポだったが、全体的に見ると、岐阜市の周辺部に前者が、中南部に後者が多かつ

た。しかし、北部と東部にもセイヨウタンポポの多い地区があった。また、タンポポ類の全く見られないところもあった。

中南部は岐阜市の中心街であり、大部分がいわゆる「緑」のほとんどない、自然環境の極めて悪い地域である。(Fig. 1参照)。このような場所に外来種のセイヨウタンポポが多く、「緑」が多くある周辺部に在来種のセイタカタンポポが多いという図式は、他の地域での調査結果と全く同様である。市の中心街でも、その中を流れる長良川の堤防沿いにはセイタカタンポポが比較的多い。周辺部でセイヨウタンポポの多いところは、新興住宅団地地域である。このような地域には、周囲に山林などのかなり良好な自然が多いところもあるが、団地自体は必ずしも良好な自然環境にあるとは言えないことを物語っている。タンポポ類のないところは、1) タンポポより高茎になる草本が優占するか、2) 最近掘り返しや埋め立てをしたばかりでタンポポ類が侵入していないと考えられるところか、3) コンクリートやアスファルトで固められて草の生える余地すらないか、のいずれかの場所であると見られる。岐阜市の最中心街、例えば国鉄岐阜駅の北側などは3)の典型例であり、自然環境は最悪と言える。また、幹線道路沿いも3)か、あるいは所によって2)により、タンポポ類のないところが多い。1)によると思われる空白地は周辺地域に多い。また、調査ルートが少ない地域が何か所かにあるが、その大部分は山林である。タンポポ類は人里植物であって、草地で、しかも定期的に草刈りなどの人為的干渉を受ける場所に多く生育する。従って、森林の林床にはもちろんのこと、草地でも高茎になる植物が優占する場所には、これらはほとんど生育できない。より良好な自然環境の残っているこれらの山林地域ではタンポポ類はあっても、その量は少ないと考えられる。

今度の調査は、タンポポ属の在来種と外来種について、それらの存否と分布状況を把握すること主目的にしたため、量的には調べていない。しかし、指標植物から自然環境の良否をより具体的にとらえるためには、やはり量的にも表わす必要がある。また、外来種でもアカミタンポポはセイヨウタンポポよりも環境条件の劣悪な場所に多い傾向が見られており、(平塚市タンポポ分布調査会、1980)、両者の分布状態も正確にとらえる必要がある。

文 献

平塚市タンポポ分布調査会. 1980. 平塚市におけるタンポポ類の分布. 自然と文化 3 : 9-19.
 堀田 満. 1975. 大阪府下のタンポポ類の分布. Nature Study 21: 38-41, 55-56.
 ————. 1977. 近畿地方におけるタンポポ類の分布. 自然史研究 1 : 117-134.
 内藤俊彦. 1975. タンポポ属 (Taraxacum) の侵入と定着について. 生物科学 27 : 195-202.
 高橋 弘. 1983. 岐阜大学統合移転地周辺におけるタンポポ属の分布. 岐大教育研報 (自然). 7 : 805-809.

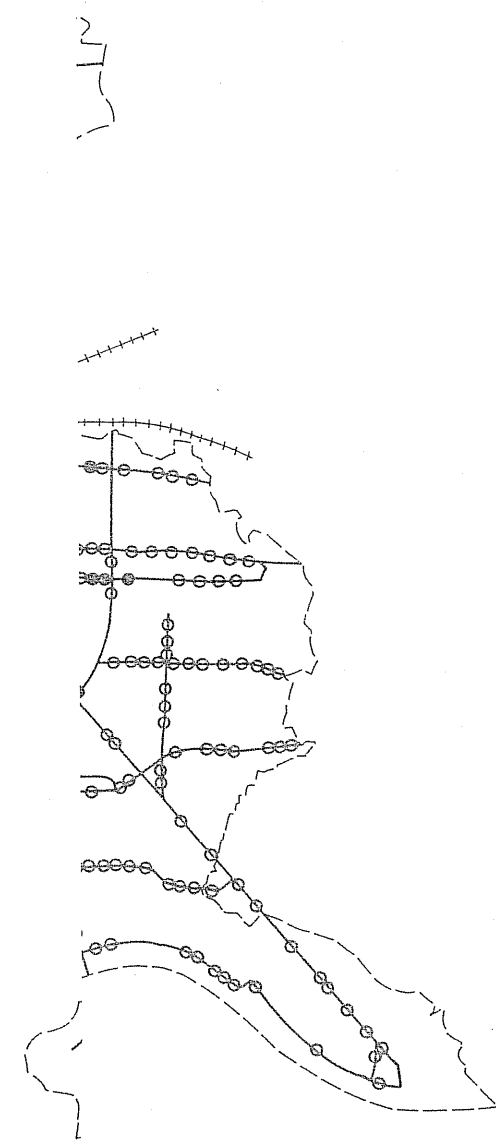
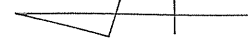


Fig. 2 Distribution of Taraxacum species in Gifu City. Investigation was made along the solid lines.
☆: *T. albidum*. ○: *T. elatum* and/or *T. longeappendiculatum*.
●: *T. officinale* and/or *T. laevigatum*.

県博

延夫
延夫

岐阜
を伐
、直
いる。
ヒロ
イを
ルナ
デな

秀雄
秀雄

牛波
る。

秀雄
一部

17)
と出

)
1)
郡

1市

24)



Fig. 2 Distribution of *Taraxacum* species in Gifu City. Investigation was made along the solid lines.
 ☆: *T. elatum* and/or *T. longecarpenticulatum*,
 ○: *T. officinale* and/or *T. laevigatum*.